

今月の一言 日本人は「部分を論じることは得意だが、全体を論じることは不得意」という主旨の指摘を、耳にしたり、目にしたりすることが多いように思います。重箱の隅に目を配るのみではなく、全体に目を配る必要を痛感します。
(松縄 堅)

Topics

- 4月1日より、NSRIホームページがリニューアルされました。NSRIの活動を通じ、都市・環境について様々な角度から今日のトレンドをお伝えするため、充実したコンテンツ掲載を目指してまいります。
- 4月22日に開催する第16回NSRI都市・環境フォーラムは、長谷川祐子氏（東京都現代美術館チーフキュレーター、多摩美術大学芸術学科特任教授）によるご講演「21世紀の美術館」です。詳細は<http://www1k.mesh.ne.jp/toshikei/>まで。

未来都市と女性

昨年の11月24日に韓国・仁川広域市で開催されたBPW仁川の主催で仁川広域市が後援した掲題をテーマとする国際シンポジウムに招聘され、講演する機会がありましたので、その際に話した内容の一部を簡単に紹介します。

BPWは、Business & Professional Women's Clubの略で、働く女性の社会的地位と職業水準の向上を図るとともに国内外の働く女性の親交と理解を深め、世界平和に寄与することを目的とする国際組織とのことです。

講演会のテーマは、今年の秋、仁川広域市で開催される「世界都市祝典」なるイベントで、未来都市のビジョンについての展示や会議が行われること、開催地の仁川広域市が掲げる都市ビジョン・主要施策の一つに「女性親和的な街づくり」というのがあること、働く女性が主たる会員であるBPWのイベントでもあることから、「未来都市と女性」というテーマを設定したと主催者事務局の方にお聞きしました。

さて、本題に入りますが、「未来都市」をどうイメージし、定義づけるかはさておき、日本にも韓国にもその未来には、確実に「超高齢社会」がやってきます。

韓国の高齢化率は現在でこそ、約10%程度ですが、2030年には約23%、2050年には34%に達すると予測されています。

日本の高齢化率は、現在22%、2030年は32%、2050年は40%の予測値ですから、高齢化率という指標だけでみると、今の日本は、ちょうど20年後の韓国の姿が、映し出されているという状況になります。



高齢化率が7%・14%・21%を超えるとそれぞれ高齢化社会、高齢社会、超高齢社会と呼ぶそうですので、日本は既に「超高齢社会」の域に突入しています。

また、以前某大学教授より、高齢化率と都市基盤の関係においては、高齢化社会はバリアフリーを推進する段階、高齢社会はバリアフリーが標準になる段階、超高齢社会は高齢者の移動手段を保障する段階と聞いたことがあります。

現在の日本が、上記のような水準で都市基盤のバリアフリーが進んでいるかどうかは疑問ですが、確かに高齢化の進展は、都市基盤のつくり方を変えている実感が少なからずあります。また、この動きは超高齢社会にあっても、高齢者が元気で活力を維持し、さらには労働力としても期待する社会の環境づくりであるようにも思います。

高齢化と都市基盤がこのような関係であるならば、高齢化社会に多くの影響をもつ、「女性の社会進出と少子化対策」が推進・標準・保証とステップアップしていく施策展開があつてしるべきで、この施策の展開に準じた都市機能や都市空間のあり方（女性親和的都市とでも呼ぶのでしょうか）も今後、都市の魅力の一つとして問われてくるような気がしました。

正直、個人的には日頃「女性」というテーマを切り出して「都市」との関係を取りあげることは皆無に近く、仕事上お付き合いのあるプロフェッショナルな女性たちに、意見を聞き、女性が社会進出、生き生きと働き、暮らすことが思った以上に大変かつ切実で身近な課題であることに触れることができ、今後の継続研究課題にしたいと思います。ご協力頂いた皆さんに改めてお礼申し上げます。
(石川貴之)



定期配信をご希望の方

定期配信を御希望の方は、下記メールアドレスまで。
(chihiro.kimura@nikken.co.jp 担当: 木村千博)

編集後記

エルサレム賞受賞スピーチ「壁と卵」の話は心に沁みました。壁とは採用された意見、卵とは採用されない声ですね。卵の側に立ちつつ、壁づくりの片棒を担ぎたいものです。(F)